



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377
〒171 東京都豊島区池袋 2-1083 橘ビル 9F FAX 03-3590-5419

No.64

第一回全国オフィススタッフ会議開催さる

— 事務局 東北セントラルオフィス —

ニューズレター63号で報告させて頂きました第一回全国セントラルオフィススタッフ会議は、5月14、15の両日、宮城県松島町のホテル「五大堂」にて開催されました。

準備不足、初めての経験ということもあり、全国各セントラルオフィス、J S O、札幌、旭川各地区委員会への開催案内の送付、出欠確認、分担金振り込み、議題提出の依頼等、2月末から4月末までの短期間にすべてをお願いし、多大な迷惑をかけてしまったことを、事務局一同本誌上を借りてお詫び致します(この短期間の事務局の依頼にもかかわらず、各セントラルオフィスはじめJ S O、オブザーバーとして参加の北海道地域メンバーより折り返し返事をいただき、要請者全員の出席が確認されました。

テーマは「セントラルオフィスの役割—今日一日オフィススタッフとしてできること、やるべきことは」と決まり、各セントラルオフィスに議題提出をお願いしましたが、第一回会議ということもあり、テーマを踏まえた自由な討議の場にすることということで、議事運営は事務局に一任されました。

会議当日、準備不足のまま迎えた全国オフィススタッフ会議。しかもオフィススタッフだけが集まる初めての会議。これまでG S Mの中で限られた時間を使い話し合いが持たれてはいましたが、議論が中途半端に終わり、より具体的な行動に結び付けられなかった反省が、この会議開催に至った大きな理由のひとつであります。今回は率直な分かち合いと明日のセントラルオフィスサービス活動につながる中身のある論議の場になるかどうか。事務局を担当させてもらった私たちとしては不安と期待がたくさんありました。

まず議事進行役は事務局を担当した東北の露野が受け持ち、それぞれのプロフィールを交えた自己紹介をプロローグとし、夕食以降の本会議に備えるという、一幕一幕を想定したプログラムで会議は進行しました。会議終了は議事次第というきつい日程が

組まれましたが、それでも話し足りなければ翌日のホテルのチェックアウトぎりぎりまでの時間の有効活用をはかると確認もしました。

各セントラルオフィス職員の自己紹介の中で感じたことは、東北の職員を除いて全員が2つの帽子を被った仲間であり、それぞれが難しい立場でオフィスのサービス業務に携わっており、多くの共通する悩みを抱えているということです。

全国評議会とは違うサービス体系、AAの窓口としての地域社会との関わり、まだ苦しんでいるアルコールにメッセージを運び続けるAAをサポートすることを目標として設立された各オフィスの役割等を踏まえ、議論すべきことは多岐にわたりますが、一つずつ、テーマに沿った話し合いが行われました。詳細は以下の通りです。

【参加】関東甲信越CO / 野口氏、中部北陸CO / 市川氏、関西CO / 新村氏、中四国CO / 中常氏、九州沖縄CO / 橋野氏、岩下氏、J S O / 小宮山氏、東北CO / 吉原(旧姓大竹)、露野、北海道CO 設立準備委員 / 佐藤氏、他オブザーバー6名 計16名(宿泊者13名)

【議事】

1. オフィスを支える現状

オフィススタッフとはどこまでを指すのか、またオフィス運営委員、オフィス委員等、各オフィスを支える現状の分かち合い:

東北CO オフィス運営委員が宮城地区に片寄っているため、オフィス委員の登録を検討している。

関東甲信越CO オフィス委員はCO設立のときから登録。オフィス委員は、グループとCOとのパイプ役(代議員はグループとAA全体サービスとのパイプ役。役割が違う)。年数回のオフィス集会で、予算や活動内容等CO運営の決定に加わる。地域120Gのうち60Gが登録している。オフィススタッフとは、有給職員、ボランティア、運営委員。

中部北陸CO オフィススタッフとは有給職員

のこと。広い意味では運営委員、ボランティアまで入る。12ステップ活動を外へ向けて実務をやっているのがスタッフ、取り計らっているのがオフィス運営委員会。

九州沖縄CO オフィススタッフとは有給職員のこと、他はオフィスボランティアスタッフ。オフィス運営委員会は各地区1名で編成したが集まらず、うまく機能していない。

関西CO オフィス運営委員会はCOガイドラインを読み、必要性を感じ出来た。構成は運営委員4名+オフィススタッフ。地域集会で運営委員会全体の信任をとっている。オフィス委員は「日本サービスガイド」にも有るが、グループのメンバー数を考えると難しい。週2回ボランティア(無給のスタッフ)が入っている。有給職員には責任と義務があるが、ボランティアには責任はあるが義務はない。

中四国CO オフィススタッフとは有給職員。オフィス運営委員会を設立したいが難しい。

JSO オフィス運営委員会はない(常任理事会が出来た時点でなくなった)。常任理事会に窓口担当がいるが、職員がオフィスを運営しているのではなく委員会に雇われているので、現在は変則的。職員とは、外部へ出られ、名乗れる人。職員が休みのとき有給ボランティアが入る。

2. 全国オフィススタッフ会議について

・GSMの時は、スタッフがGSMの内容を把握して地域へ戻すため参加。そこでスタッフだけで話し合うため平行してオフィススタッフ会議を開催した。昨年から全国評議会になり私たちももっと時間をかけて分かち合いたいということから、今回オフィススタッフ会議を独立させて開催した。

・構成メンバーはオフィススタッフ。

各オフィス(セントラルオフィス、JSO)から1名、分担金で参加。基本的にクローズで開催し、オブザーバーの範囲はオフィス運営委員まで。

・第2回は、2泊3日、同時期(5月中旬平日)に九州で開催。事務局は九州沖縄CO内に置く。

3. 実務についての分かち合い

・書籍販売価格の不統一

JSOより 関東甲信越COで1割引で販売しているが、同じ関東にあるJSOと価格が異なり、特に外部に対して二重価格と言う誤解が生じている。また、病院施設への販売の10冊に1冊のサービスや、グループのミーティング場向け展示サンプル用割引セット販売もいつまでやるのか決まっていな

COより 販売価格を統一して欲しい。書籍販売は実際COの財源を支えている。仕入価格を3割引にして欲しい(現在2割引)



・その他、書籍掛け売りの未収金を無くすには、連絡事項(代議員、ミーティングの登録や変更)のJSOとCO相互の連絡漏れを防ぐには等、具体的に分かち合った。

4. セントラルオフィス設立について

北海道地域オフィス設立準備委員会のメンバーがオブザーバー参加(現在、メンバー8名で準備委員会を発足している状況)

各COの設立時のいきさつについて分かち合い、オフィスの目的はAAグループの活動を支援することで、地域メンバーのためだけではなく、北海道の今苦しんでいる人にAAを知らせるためにもオフィスが必要という意見が出た。

5. 全国オフィススタッフ会議からの要望

オフィスの現状を一番知っているのがスタッフ。全体サービスとCOは別だが“一緒にやること”とガイドラインにもあるし、1つのオフィスでは解決出来ない問題もある。全オフィスにかかわる問題を、全国評議会の中でオフィススタッフ会議から出た要望として出せないか検討した。

そこで、今回の会議で分かち合われた“書籍販売価格の不統一の問題”について、評議会事務局を通して議事委員会に諮ってもらい、議題として検討が可能なら文書委員会へ提案することにした。

以上、分かち合われた内容を整理し、その要旨を箇条書きにし議事の報告としましたが、それぞれのテーマの前後で話し合われた中に、現在のオフィススタッフ(職員)の本音と苦悩があったことも事実です。

延べ9時間という長丁場にわたった会議、それでも語り尽くせなかった事、全体サービスとの二人三脚をスムーズにし続けていくためのコミュニケーションの在り方、継続していく事でしか対応していけない事柄等の問題を、共通の認識として分かち合えたことは大きな収穫であったと考えます。

次回、第二回全国オフィススタッフ会議の開催地を九州と決定させていただきました。グループ、メンバーのより一層のご協力とご支援をお願いし、第一回全国オフィススタッフ会議の報告と致します。

露野、吉原

書記のつぶやき

常任理事会 / 評議会事務局書記

95年12月、地域委員の役割の任期が終わり、少しばかりの安心感と、サービスという責任の重さの経験のなかで、自分の手には余るものの多さを痛感し、さまざまな問題をたくさん宿題としていただきました。飲まないで生き続ける方法の一部分を体験としてとらえることができました。それは、確かに自分はいなくてもAAのサービスは続いてゆくだろう。しかし自分にとっては、そのサービスが必要であり、またそれに自分から加わってゆくことが、飲まない生き方の大切な部分だと感じたことです。

日々のミーティングに参加し、仲間との分かち合いから、今日一日の生き方を確認し続けること、まだ苦しんでいる人々へメッセージを伝えること、そしてすべてのAAメンバーとの信頼関係を大切にするという、簡単そうで難しいプログラムに出会えたことに感謝しています。

入院中に病院へメッセージが届けられたこと(当時は反発しか感じなかったが)、退院したときに今も通っているミーティング場がそこにあったということ、自分でも訳の分らないことを話し、それを何も言わずに黙って聞いてくれた仲間がいたこと、かなりの期間が過ぎて、やっとコーヒー茶碗を片付ける手伝いができるようになり、またしばらくして、グループのメンバーとして会場係をさせてもらうようになったこと等々、それぞれ個人によってその過程は違うのですが、不思議なことに一日一日と飲まないで歩き続けることができました。

最初に戻りますが、95年2月の20周年集会のなか、全国代議員集会へグループの代議員として参加することになり、そこで常任理事会の構成が決議されました。自分自身は勉強不足のため、内容については正確に理解していた訳ではなかったのですが、ただ草創期のご苦労、GSM等での先人の努力の結果、日本全体のサービス構成として評議会、常任理事会を発足させ、AAの目的に向けてメンバー、グループが動き始めたように感じていました。

これまでただ漠然と献金を届ける場所というだけで、日常のサービス業務などの大変なご苦労は知る由もなかったJSOでした。住居が比較的近いところにあるにもかかわらず、積極的にお手伝いをするなど考えてもいなかったのです。とはいえ、グループの経験ある仲間からいつもサービスに何らかの関わりをもっている方がよいと提案をもらって

たこともあったので、地域の役割が終わったあと、会場の準備などの評議会のお手伝いなら自分でもできるのではと考えていました(これまでGSMが開催されていることは知っていたものの、自分とは関係ないものだと、まるで興味も関心もなく、何となく報告書を見ていただけだったのに...)。そこで地域の評議員にお手伝いの話を伝えたのですが、どう誤解されたのか、JSOの小宮山氏から常任理事会の書記を依頼されました。過去を振り返って、自分の最も嫌いなことのひとつで、その上、現在までの仕事の中でも、ほとんど経験していないことなのです。まして学生時代のレポートでさえ、一つとして自分で書き終えたことがないわたしに、何と何を...。ハイヤーパワーの配慮だといえれば格好よいかもしいませんが、でも大好きな言葉“平安の祈り”のとおり、とにかくやってみよう、そしてもしできなければ、そこで断る勇気を持つようと思い、96年1月の第1回常任理事会へ恐る恐る出かけて行きました。

JSO運営委員会の時からの前任の書記の方の補佐が務められればと思いながら、緊張の中で理事会はあっという間に過ぎてしまいました。夢中でとった訳のわからない自分のメモを見返して愕然としたのです。これを議事録にしなければならぬのかと気が重く、約5時間分の録音テープと十分な疲労感と後悔を持って帰りました。前任書記による議事録の整然としつつ内容のよく見える文章を参考にすればなどと考えてみたものの、自分が持っていないものはいかんともしがたく、頭の中と手がどうしても一致してくれないのです。ただ、生まれつきのどうにでもなれの良い加減さで何とか体裁をつくってJSOに届けました。自分の手元を離れた安心感と十分に内容を伝えることができなかったという後悔と情けなさの入り混ざった複雑な気持ちで、これは現在でも変わりがなく、どうしても成長することができないようです。

今、わたし自身、飲まないでいることが信じられない部分があるのに、日本全体のサービスを検討し、審議し、その方向づけを慎重に討論している常任理事会の内容をメンバーに伝える責任は重すぎるようで、十分にその役割が果たしているとは思いません。でもAAの大きな広い心でどうぞご理解くださるよう、そして、ぜひともご提案、ご意見、ご要望をいただきたいと願っているのです。

96年3月第1回評議会に向けた事務局の役割も、当初の思いとは異なり議事に関するの書記をさせていただくことになったのです。

自分の経験として、前にも述べたようにGSMへの参加経験がなく、その内容については、報告書や先人の話の中でしか知らないの、何とも言いようのない不安がありました。でも全国の評議員のお話しがきけるのだという期待もあり、とにかくできるだけのことを、と考えていました。理事会と同じく先任の方が一緒に、おかげさまで、わたしの不安はほとんど取り払うことができました。熱の入った討論を傾聴し、テープを1時間づつ取りかえることに専念したのです。

さて、評議会も無事終了し、ホッとしたところ、今度はその報告書を作る作業が待っていました。この経験は、今自分にとっても役に立っているのです。つまり昔からどうしても変えることのできない「やりっ放し」の性格のわたしにとって、とてもつらい試練だったようです。「後片付けをする」という作業が最も苦手だった自分が、メンバー一人一人の貴重な献金によって賄われている評議会の報告を、できるだけ早く、正確に伝えなければというテーマを与えられ、いやおうなくやらざるを得なかったのです。とはいえ、十分な協力ができなかつたことは反省しています。他のメンバーのひたすら汗を流す作業があり、発行にこぎつけていただきました。

なにごとにおいてもその後の対応の的確さと責任を果たしてゆく作業は、これからもずっと必要な

ものだと感じていますが、日常生活の中、この素敵な教訓がなかなかうまく活用できないことは言うまでもありません。初めての経験からいろいろなことを学びましたが、それを活かすにはかなり時間がかかるのかもしれませんが。とはいえ事務局の仕事はさっそく第二回評議会に向けて始まり、反省点、問題点の処理、整理、そして限られた時間の有効な活用と内容の充実を目指した検討作業が重ねられました。常任理事会という責任の所在が明らかになり、評議会という議決機関が設けられたのです。そこにメンバーからの意見、提案が届くようにするためには何が必要なのか、さまざまな角度から見つめなければならぬと思います。伝統2に述べられていることを忘れずに、AAのメンバー一人一人の正直な経験の述べ伝えが、必ず、まだ苦しんでいる人々にメッセージとして届けられることだと考えます。

どうしても、自分が文字を書くことが好きにはなれません。でも出来る限りの努力をすることをAAに教えていただきました。だから次の仲間に、この役割を引き継ぐときまで(できるだけ早期にとの思いがありますが)、努力します。この1年半の間に今までに書いて来た文字の数より多くの文字を書いたような気がしています。そして自分の中のいろいろな面で不足している部分を、あらためて見せてもらいました。言葉と文字の複雑な関係にもう少し付き合っていこうかなと思っている今日このごろです。

野崎

矯正施設に入所経験のある仲間の「個人の物語」の原稿を募集します

矯正施設への出版物によるメッセージを充実させるために入所経験のある仲間からの原稿を募集しています。400字詰めで10枚程度にまとめて8月末までにJ S O内常任理事会病院施設担当までお送り下さい。



AAパソコンミーティングLOVEについてお知らせ

AAパソコンミーティングLOVEはニフティのHP廃止にともない場所を移動しました。

移動場所: PAT10 1D: QZY02272

パスワード: AA=LOVE0(半角大文字、最後は数字の0です)お問合わせ: VFC06136にEMIにて

「ミーティングハンドブック」1ページ目の上段に著作権の注意書きが加えられました。原著作権者との著作権使用許可手続き上必要なことですので、ご理解ください。